



労組)の結果から、基本給平均は300,038円となります。このことから、連合要求の2%は6,000円に相当します。

また、今後もより業務の高度化・集約化がされる中において、労働力の価値に見合った賃金を求めることが妥当だと考えています。採用において事務職と技術職が分離され、現時点においては、定期昇給を維持していますが、ジョブ型雇用などの社会情勢は、終身雇用システムの根幹をなす年功賃金への影響を及ぼしていくことから、定期昇給を求めていくことはとても重要なことだと考えています。私たちは、あくまで全組合員の賃金「底上げ(IIベースアップ)」を目指していきます。

そして、「第二基本給の凍結」を引き続き求めていきます。私たちは、実感のある退職手当、昇進に際しての組合差別の問題、退職手当の算出方法の組合案などを、JR総連の仲間と共に、組合員の将来に不安を増大させないためにも、様々な教訓をもとに労使議論をつくり出していくことを考えてきました。企画部門についての発言もいただきました。将来の職場の姿を予想した場合に、企画部門に特化されてきた業務が様々な機関でも担うことが予測されます。よって、「企画業務手当」の必要性を今後も訴えていきます。「20春闘に向けて」という資料等を活用しながら職場議論を是非深めていただきたいと思います。

職場のたたかいなしに、問題解決はない

労働組合が存在しない職場がどのような状況になるかは、特にJR東海やJR西日本の労務管理が徹底された職場実態を私たちは見てきてわかっていると思います。そして、物言えぬ職場風土は、安全問題にも直結します。現在、私たちの職場は、通常業務より自己啓発活動を優先する職場風土が醸成されつつあります。これは、重大事故を引き起こす前夜であることを私たちは自覚しなければなりません。また、要員問題における実践的な発言もあり、職場のたたかいなしに、仲間はこちらに向かないということも述べられております。

JR東労組が過半数を占めている職場は大きく減少しました。だからこそ、職場の代表選で勝利する体制をつくり出していかなくてはなりません。職場の過半数を目指していくことなど、私たちはこのような現実に対して、立ち向かっていかなければなりません。職場で発生している問題や業務課題についても多く発言をいただき、しっかりと受け止め解決に向けた努力は惜しみません。

分裂組織は、20春闘の闘争破壊だ！

20春闘に集中していかねばならない現時点において、1月16日だと思われませんが、JR東労組に対する組織破壊と決定された「真実の目」に「分裂組織が立ち上がる」かの内容が掲載されてきました。そして、1月20日「東京地本を憂う会」名で、複数の地方本部に、水戸・東京・八王子地本主催12・26 集会の告発文が届きました。

本部内はもろろんのこと、各地本の仲間のみなさんからも、水戸・東京・八王子地本管内の仲間たちに連絡を取っていただき、最大限の引き止めのたたかいをしていただきました。このたたかいに参画していただいた全ての皆様に感謝を申し上げたいと思いますし、今後もしっかりとたたかいていかなければならないと思います。

多くの感銘を与えた組織分裂を許さない長野地本見解の主旨に關しての発言もいただきました。私たちの健闘むなしく、分裂組織が立ち上がり、こともあろうことか、脱退懲罰まで行い、挙句の果てには、JR東労組の財産を持ち逃げするかのよう画策と、湯水のごとく組合費を悪用していたことなども明らかとなってきています。彼らは、組合の団結破壊の最たる分裂策動を行っているばかりでなく、東京地本においてはJR東労組に損害を与えた「背任」「横領」の疑いもあります。水戸・東京・八王子地本執行委員として、積極的にJR東労組の組織決定に反する活動を展開することによって団結を破壊し、分裂組合結成を導きました。また、支部・分会における分裂策動も助長しました。分裂策動は団結破壊の最たるものであって、この20春闘の闘争破壊でもあって、断じて許されるものではありません。

一切の不正は認めません！

1月28日、29日に緊急の会計監査を東京地本で実施してきました。公認会計士や弁護士に報告したところ「これはもう極めて悪質です」と指摘がされました。聞くところによりますと、東京地本の方たちは、「村田副委員長が教えてくれたやり方です」とも、東京地本に不正は一切ありません」と、きっぱり言い切っているようです。

しかし、このことは、自己もしくは第三者の利益を図り、その任務に背く行為を行い、JR東労組に財産上の損害を与えたこと

から「背任罪」という犯罪行為に値します。そして、連帯活動基金の運用を地本執行委員会で決定し、常軌を逸した高額な退職金を支出したことは、JR東労組に多大なる損害を与えるものです。一切悪びれることなく立振る舞っていることから、もはや話し合いのレベルではありません。組合費の私的利用など断じて許されるものではありません。「あつたことをなかつたことにはできません」と発言がりましたが、法的手段も視野に入れて断固として対応していきます。

ウソ・ごまかしの分裂組合に未来はない！

ある組合員からは、「会社と対立する分裂組合は組織拡大できず、先細りしか感じない。国労化していく。新労組にビジョンがない」「会社とは対立だけではダメ。対立では会社が向き合えない」「組合費が安くて、裁判費用でカンパだらけになる。組合員はATMじゃない」「東京は対立する人を人として扱わない」ということが言われていました。

分裂を先導するものたちは、18春闘の指導責任を反省せず、スト権投票時に賛同することを組合員に強いたように、またもや組合員を引き回し、そのことに飽き足らず、分裂策動を引き起こし、さらに脱退懲罰まで行い、挙句の果てにはJR東労組の財産を悪用していた疑いがあります。まさに、これらの事態は、決別ではなく「逃」です。

JR総連・榎本委員長が分裂組織について「2020春闘では格差ペア永久根絶を掲げ、スト権を確立し、指名ストでたたかうはず。不当労働行為についても、1,000件以上集約しているものを、第三者機関でたたかうはず。彼らが主張したことを実践しなければJR東労組本部の乗っ取りが狙いだったと思われるけれども仕方がないんじゃないか」ということを来賓あいさつでいわれました。私もそのことに共感しました。

仲間と共に「新生JR東労組運動宣言」を

実践していくこう！

「組織運営に関する緊急措置について」、水戸・東京・八王子地本の執行体制がなくなり、今後の地本再建を目指し、本部が代替執行するために本部派遣を行っていきます。そして、水戸・東京・八王子地本の全機関役員への面談を実施していきます。また、改めて「JR東労組東京地本を守る会」「組合員の

ためのJR東労組を守る八王子の会」に組織再確立へ向けた協力を要請したいと思います。そして、全地方本部は、この委員会決定を全組合員に周知徹底していただき、水戸・東京・八王子地本の良心的組合員と共に、水戸・東京・八王子地本の再確立に向け組織の強化を図ることを引き続き要請していきたいと思ひます。「ともに連帯していく」と心強い発言もありました。しかし、どういった想いを馳せて私たちはたたかいていくのか問われています。それは、このたたかいは並大抵のものではないということです。

なぜなら、昨日、東京地本を守る会に最近賛同していただいた方から、2月3日に行われた、東京地本主催・ライフサイクル連絡会の総会に参加した報告を聞きました。彼から「ライフサイクルメンバーが新組織について不安を抱えている。他の職場はどうか」と質問したそうです。すると、業務部長は、「今日はJR東労組の会議、新組織に対して地本はコメントしない」と返答したそうです。そして彼から、「最後に1つ、俺はJR東労組に残るので答えてほしい。今日の総会で出された業務課題について、業務部長は今後連携をとって取り組んでいくと言ったが、ダイヤ改正に向けた問題点を集約するように地本から言われている。JR東労組として業務部長や今の地本は取り組むのか」「私の発言は、地本で今日の総会について情報化しきつんと載せて出してほしい」と発言すると、業務部長は、「すみません。個人的に答えれば私は新組織に行くので、業務課題の解決に向けて出来ません」と答えたそうです。

「新たな組織は業務のスペシャリストがたくさんいるから」と組織化された方もいるようですが、ずいぶん無責任な回答です。組合員の要求に対する裏切りです。こういったことに切り込んでいく彼の実践に私は感銘を受けました。本日にも参加していただいている仲間のみなさんをはじめ、現段階における彼らの実践を我がものにする共に、そのことを想いを馳せて、再実践していくことが私たちの課題です。「JR東労組東京地本を守る会」「組合員のためのJR東労組を守る八王子の会」の仲間と強く連帯してたたかいていく決意です。

「消化不良の2年だった」「職場から議論をつくりだして」「職場から挑戦していく」と発言がありました。「新生JR東労組運動宣言」を、地本委員会などでぜひ積極的に議論していただき、地本や支部、分会などでも、具体的な方針・指針を打ち出し、雄々しく運動を共に展開していきましょう。